



大谷っ子

R7.10.1

第10号

ふるさと大谷を想い お互いを大切に
未来をたくましく生きる子供の育成

朝日町立大谷小学校
校長 遠藤 秀彦



「本物に触れる機会を！」

「聞いたことは忘れる、見たことは覚える、やったことはわかる」。これは、中国の儒学者であった荀子（じゅんし）の言葉とされています。

この言葉を「記憶に残る割合」で表したらどうなるのか。一説によれば下記のようなようです。

・聞いたこと 10% ・見たこと 15% ・体験したこと 80%

様々な調査結果や個人差はあるにしろ、いずれも体験（本物に触れる機会）の大切さをよく表しています。

これまでの学校だよりでも紹介してきた通り、大谷小学校では、「実際に本物を見る、聞く、嗅ぐ、味わう、さわる、感じることを大切にした教育活動」を大切にしています。9月17日（水）、1，2年生は、寒河江市、河北町方面に、3，4年生は、山形市、寒河江市方面に校外学習に出かけました。さらに、6年生は、9月25日（木）から一泊二日の行程で、福島県に修学旅行。9月26日（金）には、5年生が、稲刈りを行いました。

すべてが、学校の中では味わえない貴重な体験であり、子供たちの心にしっかりと刻まれた学習でした。

また、こうした学習は、子供に付けたい力を明確にもち、学習活動を計画し、その場に応じて適切に対応する教職員がいてこそ行えた学習だと思っています。力のある大谷小学校の教職員を誇りに思います。

1，2年生

【奥羽乳業】

「給食で飲んでいる牛乳ができるまで！」



【クラッピンさがえ】

「体全体動かして！」



3，4年生

【山形県庁】

「私たちの暮らしを支える！」



【山形県警察本部】

「安全で安心な街に！」



5年生【米作り～稲刈り～】

「米作りに携わっている方の思い、そして、米のありがたさを知る！」



※小野昇一郎さんからは、私が担任をしていた17年前も助けていただきました。長年、土地改良区の皆様にご協力いただいている学習です。町の未来を担う子供の育ちを支えていただき、ありがとうございます。

6年生【修学旅行】

「外国感覚『ブリティッシュ・ヒルズ』！会津若松での班別研修！」



※町合同修学旅行は、朝日町から補助をいただき実施している教育活動です。町民の皆様には感謝いたします。

ふるさと給食 ～里山の恵み「あけび給食」～

生産量日本一を誇る朝日町の「あけび」。丹精込めて育まれた里山の恵みを、本校調理師（渡邊真由美）と調理員（玄地悠）の手により「あけびの味噌炒め」でいただきました。

9月19日（金）、町食生活改善推進協議会の志藤一枝さん、吉田沙織さん、町あけび生産組合から白田勇記さんが来校し、栽培への思い、郷土料理のすばらしさを語ってくださいました。

志藤一枝さんは「農家民宿」、吉田沙織さんは「地域おこし協力隊」としても活動しています。また、白田勇記さんは「あけび栽培」に取り組まれた先駆者です。

子供たちには、3人の方のように「挑戦する決意、挑戦し続ける覚悟」を大切にして欲しいとも話しました。

